

## 術後せん妄とは？

### 術後せん妄の定義

DSM-5の診断基準<sup>3)</sup>に基づけば、「せん妄とは、認知の障害を伴う注意の障害および意識の障害で、短期間のうちに出現し、1日の経過のなかで覚醒度が変動するという特徴を持つ精神症状である」と説明することができます。なかでも重要な要素は「覚醒度」です。せん妄の本態は、「覚醒度が低下した状態」の遷延にあります。

### 術後せん妄の特徴

内科病棟、精神科病棟、救急病棟、高齢者福祉施設などさまざまな臨床現場で遭遇する「せん妄」ですが、術後急性期に発症する術後せん妄にはいくつかの特徴があります。

1つ目は、手術を受けたことを契機として発症することです。これは手術による身体への影響(手術侵襲)が術後せん妄の直接的な原因となっていることを意味します。

2つ目は、術前には精神症状を呈していない患者にも発症することです。もちろん、術前に神経認知障害(認知症など)を抱える患者の場合は発症リスクも高くなりますが、そうではない人も(もちろん筆者も、あなたも)誰でも手術を受ければ術後せん妄になるかもしれないということです。

3つ目は、それが一過性の精神症状であることです。もちろん、どのような領域で起こるせん妄も、症状が現れたり消えたりするという点から一過性であるといえます。しかし、術後せん妄は手術侵襲が直接的な原因ですから、手術による身体への影響が取り除かれれば、自然にせん妄症状は起こらなくなります(表1)。

表1 術後せん妄の特徴

手術を受けたことを契機として発症する
誰にでも発症する可能性がある
身体の回復に伴って消失する一過性の症状である

## 術後せん妄の基本的な発症機序

前述した3つの特徴をまとめると、「術後せん妄とは、手術による身体的な影響を直接的な原因とした、誰にでも起こる可能性がある、一過性の精神症状である」ということができます。つまり、手術による身体への影響でせん妄は発症し、その影響から回復すればせん妄も発症しなくなるということです。もちろん、実際には術後に使用される薬剤の影響、予後に対する不安のような心理的

影響、痛みや騒音、照明環境といった環境刺激など、さまざまなことが術後せん妄に影響しているといわれており、それらのことが術後せん妄という症状をわかりにくくしている原因であると考えられます。しかし、だからこそ基本的な発症機序を理解しておくことは、術後せん妄に対応していくうえで大きな武器となります(図1)。

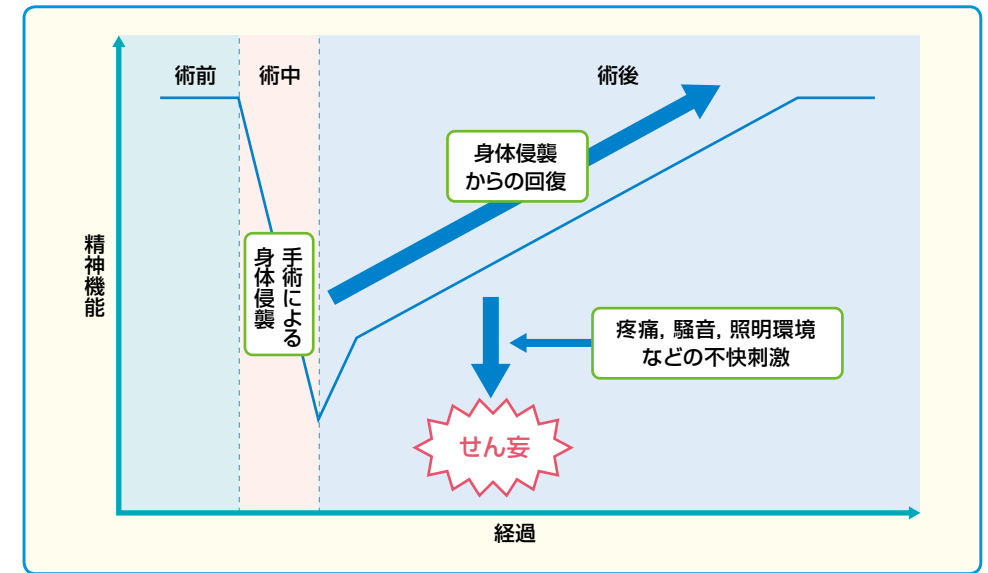


図1 術後せん妄の基本的な発症機序

## 術後精神機能の低下と回復

皆さんはもしかしたら、術後せん妄は何の前触れもなく突然に発症するという印象を持っていないでしょうか。もしそうであるとすれば、それは術後せん妄ではないときの患者の精神機能に対して「とくに問題はない」とアセスメントされているからかもしれません。たとえば術後の患者には「話しているとすぐにウトウトしてしまう」などといった様子がみられることもしばしばあります。このような様子は、それだけで術後せん妄と判断されるようなものではありませんが、術前の患者の状態からはずいぶんとかけ離れた状態であるといえます。このような患者も、だんだん精神機能がしっかりとするようになり、リハビリが完了する頃には術前とさほど変わらない様子で過ごせるようになります。

術後の精神機能は、身体機能と同じように低下しており、時間をかけて回復していくものであると考えられます。術後せん妄は、この精神機能の回復途上で発症する精神症状と考えることができ

ます。そして、精神機能の回復時期にどんなタイミングで術後せん妄が発症したかによって、その原因や特徴が異なってきます。

ここからは筆者が研究をしていてわかったことも交えながら、発症の時期という視点で、①麻酔覚醒に起因するせん妄、②手術侵襲に起因するせん妄、③術後合併症に起因するせん妄、の3つに術後せん妄を分類し、その原因や特徴を考えていこうと思います。

### 麻酔覚醒に起因するせん妄：覚醒時せん妄

手術中の麻酔によって意識が失われた状態から完全に覚醒するまでの移行時期に起きるせん妄を「覚醒時せん妄(emergence delirium)」と呼びます<sup>4)</sup>。覚醒時せん妄は、覚醒度の変動がなく、短時間で症状が消失するものとされています。つまりは、麻酔からの覚醒が完了すると起こらなくなる症状